年間指導計画　養護〔生命の保持、情緒の安定〕　令和6年度　みいづ保育園

		5歳児	達成率	4歳児	達成率	3歳児	達成率	2歳児	達成率	1歳児	達成率	0歳児	達成率
生命の保持（生理的な満足の保証）	Ⅰ期 ①快適	平常の健康状態や発達状態を的確に把握する	100	平常の健康状態や発達状態を的確に把握する	100%	平常の健康状態や発達状態を的確に把握する	100%	平常の健康状態や発達状態を的確に把握する	80	常に体の状態や変化を細かく観察し、疾病や異常には速やかに対応する。	100	常に体の状態や変化を細かく観察し、疾病や異常には速やかに対応する。	
		汗を拭いたり顔を洗ったり、服を着替えたり水を飲む事で、気持ちよさを実感する。	100	汗を拭いたり顔を洗ったり、服を着替えたり水を飲む事で、気持ちよさを実感する。	83%	汗を拭いたり顔を洗ったり、服を着替えたり水を飲む事で、気持ちよさを実感する。	100%	汗を拭いたり顔を洗ったり、服を着替えたり水を飲む事で、気持ちよさを実感する。	80	汗を拭いたり顔を洗ったり、服を着替えたり水を飲む事で、気持ちよさを実感する。	100	汗を拭いたり顔を洗ったり、服を着替えたり水を飲む事で、気持ちよさを実感する。	
	Ⅱ期 ②健康で安全	紫外線、熱射病、水分補給に留意し、保健的な保育環境を維持する。	100	紫外線、熱射病、水分補給に留意し、保健的な保育環境を維持する。	100%	紫外線、熱射病、水分補給に留意し、保健的な保育環境を維持する。	100%	快適に過ごせるよう、風通し・室温に気を配り、涼しさを感じられるようにする。	100	快適に過ごせるよう、風通し・室温に気を配り、涼しさを感じられるようにする。	100	快適に過ごせるよう、風通し・室温に気を配り、涼しさを感じられるようにする。	
		幅広い経験を基に、自ら病気や事故防止への配慮もできるよう関わる。	100	子どもの行動を把握して、危険予測を共有し、事故防止に努める。	83%	子どもの行動を把握して、危険予測を共有し、事故防止に努める。	86%	子どもの行動を把握して、危険予測を共有し、事故防止に努める。	80	家庭と嘱託医との連携を図る	100	家庭と嘱託医との連携を図る	
	Ⅲ期 ③生理的欲求	仲間の中の一人としての自覚を持って生活する中で、また家庭と協力しながら、生活習慣を再確認する。	100	仲間との生活を意識する中で、また家庭と協力しながら、より細部にわたって生活習慣を確立していく。	100%	見通しの持てる日課の中で、自立した生活を援助していく。援助は受容と共感を基盤とする。	100%	生活面の援助は、自立を妨げないよう、過剰にならないよう配慮する。	80	特定の大人との関わりを十分持ち、食事・排泄・睡眠などが快適にできるよう配慮し、家庭と協力し適切な生活リズムを作る。	100	空腹・排泄の要求・眠たさなどの生理的なニーズや身体的な不快感などを母に代わる特定の人に訴え、快適にできるよう配慮していく。	
						気候や体調に合わせて衣服を調節する習慣をつける。	100%	気候や体調に合わせて衣服を調節する習慣をつける。	80				
	Ⅳ期 ④健康増進	インフルエンザや風邪の予防に、うがい手洗い・換気・清掃・湿度の確保を念入りに行う。	100	インフルエンザや風邪の予防に、うがい手洗い・換気・清掃・湿度の確保を念入りに行う。	100%	インフルエンザや風邪の予防に、うがい手洗い・換気・清掃・湿度の確保を念入りに行う。	86%	インフルエンザや風邪の予防に、うがい手洗い・換気・清掃・湿度の確保を念入りに行う。	80	インフルエンザや風邪の予防に、うがい手洗い・換気・清掃・湿度の確保を念入りに行う。	80	インフルエンザや風邪の予防に、手洗い・換気・清掃・湿度の確保を念入りに行う。	
						・休息の必要性を意識する。	100%						
		寒いときこそ戸外でルールのある遊びを取り入れていく（サッカー、ドッジボール、缶蹴り）	73	寒いときには友達と戸外で身体を動かす心地よさを味わう。	100%	戸外で元気に身体を動かし、寒さに負けない身体をつくる。	100%	寒さに負けない身体づくりのため、積極的に戸外で身体を動かす。	80	寒さに負けない身体づくりのため、陽のあるときは、積極的に戸外で身体を動かす。	80	動と静のバランスに配慮しながら、全身を使う運動を適切に取り入れ、体力をつけていく。	
情緒の安定（精神的な安心の保証）	Ⅰ期 ①安定感	友達とのトラブル時においても情緒が不安定にならぬよう、暖かい眼差しで見守る。	100	子どもは思っていることと違った時に不安や混乱を覚えるので、見通しの持てる日課で生活する。	100%	身近な大人の存在が、知りたいこと、出来たことなどへタイミング良く適切に対応していくことによって、情緒の安定が保たれる。	100%	個々の発達過程に応じた言葉かけによって、安定感を持って過ごせるようにする。	80	喃語や一語文、身振り手振りなどの表現を理解し、興味や気持ちに優しく応答し、安定感を得られるようにする。	100	新しい環境に慣れるまで、出来るだけスキンシップを多くし、安定感を持って過ごせるようにする。	
	Ⅱ期 ②安心	集団の中で、一人一人が安心して自分の気持ちを表せているか、注意深く見守る。	100	子ども同士の遊びを豊かにし、友達との関係の中で徐々に自分を発揮できるようになる。	83%	大人との信頼関係を基盤にして、仲間にも自分の気持ちを安心して表せるようになる。	100%	不安や要求を受け止めてもらい、安心して自分の気持ちを表せるように援助する。	80	大人の言うことが分かるようになり、自分の意志を身近な大人に伝えようとするのを、温かく受け入れる。	100	人見知りをするようになるので、不安にならないよう、特定の大人と情緒的な絆を深め、安心感を高める。	
	Ⅲ期 ③癒し	静と動のバランスを図りながら、必要があれば家庭に代わり心身の疲れを癒せるよう配慮する。	100	静と動のバランスを図りながら、必要があれば家庭に代わり心身の疲れを癒せるよう配慮する。	100%	家庭と連携しながら、生活リズム・食事・休息を適切に整える。	100%	発散・集中・リラックスなどの活動のバランスを図っていく。	80	静かで心地よい環境の下で、十分な休息をとることが出来るようにする。	80	静かで心地よい環境の下で、十分な休息をとることが出来るようにする。	
	Ⅳ期 ④主体	集団の中で一人一人の主体性が発揮されているか注意深く見守る。	100	自己への信頼と自信に基づき、相手への信頼と思いやりも育まれるように配慮する。	83%	一人の人間として扱われ、主体的な行動が他人への迷惑のない限り許容される。	100%	自分でしたがる時は見守り、手助けが必要な時は援助しながら、やったこと、出来たことを認めていく。	80	保育士等との信頼関係を基盤に、自分でやりたいという気持ちを引き出し、それを十分認める。	100	安心できる大人から尊重され育てられる中で、自らを主体と認識させ、自発性や探索意欲を高める。	